

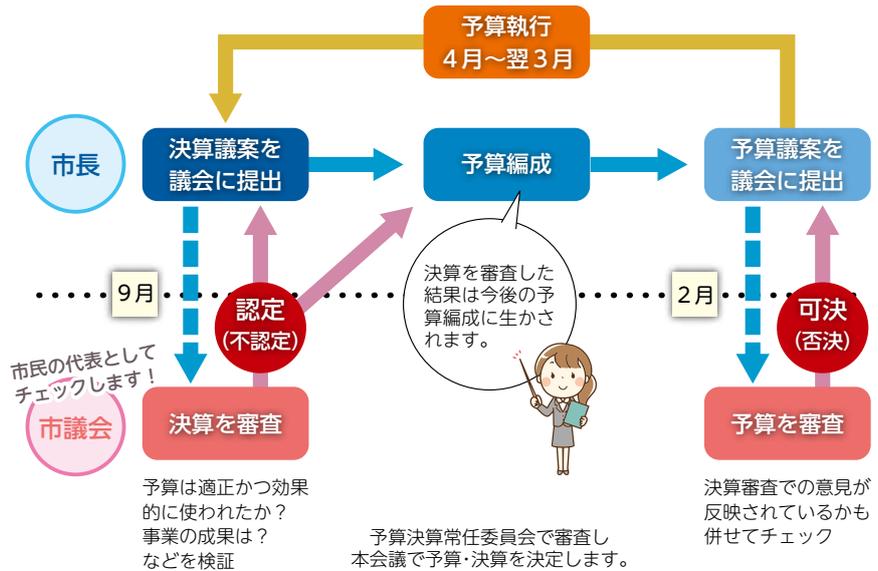
9月定例会の あらまし

平成30年度 甲賀市歳入歳出決算について 36議案(決算・補正予算・条例等)認定・可決

決算を審査して、今後の予算へつなげる!!



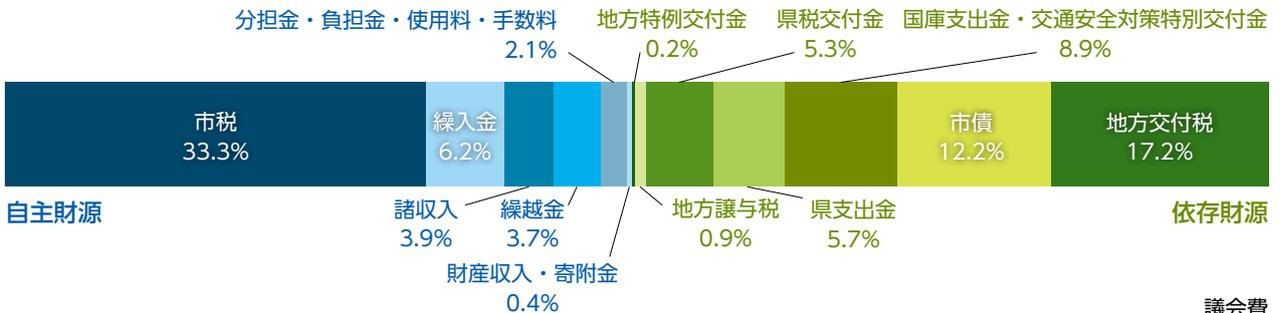
市の予算は、使って終わりではありません。市長は、予算がどのように使われたのかを決算としてまとめ、議会はその内容をチェックします。決算審議では、前年度の予算の使い方が適正かつ効果的であったか、いかに事業成果が上がったかなどを議会で審査し、改善点の指摘や要望をします。それを市が『来年度予算に生かす』ことにより、決算審査の結果が今後の予算につながっていくのです。



平成30年度一般会計及び特別会計などの決算議案については、本会議で議案審議を行ったあと、一般会計は予算決算常任委員会に、特別会計・企業会計は総務・厚生文教・産業建設常任委員会に付託され議案審査を行いました。その結果、各会計決算議案を原案どおりに認定しました。

平成30年度 一般会計決算状況

歳入決算の構成(決算額：429億1606万7995円)



歳出決算の構成(決算額：413億9137万3846円)



一般会計の決算収支の概要

一般会計においては、実質3億3182万5千円が繰越財源となりました。

決算審査①

決算審査

地方創生交付金事業

Q 全く事業化できなかった点は何か、できなかった事業も資料に示すべきではないか。

A 当初予算では、甲賀流DMO地域再生推進事業800万円が計上されていたが、観光DMOのあり方が変更されたことにより事業は未執行となった。

審査結果 今後決算では、マインナス部分もしっかりと事業評価する必要があることを指摘しました。

総合政策部・総務部

Q ふるさと納税寄付額が約7400万円、前年度約1500万円より約5倍伸びた要因は。

A 昨年10月よりインターネットサイト「さとふる」が追加され、返礼品の地場産品のエントリーが増えたため。返礼品は約38%が信楽焼、次いで近江牛約20%だった。



Q 市税の収入未済等、前年度より減少とのことだが主な理由は。

A 滞納処分の徹底や分納の履行監視、執行停止や不納欠損処分を行ってきたことによるもの。

Q 「広報こうか」の郵送者にアンケートが実施され、回答があった人のみ引き続き郵送する対応をしたことに対して、改善をしては。

A 現在525人に郵送しているが返信があったのは126人だけ。

審査結果

委員会では「郵送をやめるよう誘導される記述もあり問題である」との指摘があり、アンケートの返信がなくても、郵送希望があれば今後も郵送を続けることを確認しました。

市民環境部・健康福祉部

Q 毎回指摘がある防犯灯の件は。

A 現在、各自治会が管理する防犯灯について照会をかけており、細分化した区及び自治会230のうち218まで回収済みで、今後関西電力の情報とも照合して位置図を作成する。

審査結果

防犯灯のあり方を考える上で大事なことなので、スピードアップして、まずは実態を明らかにする必要があるので委員会としても確認しました。新年度予算では具体的な対応を求めました。



市内に設置された防犯灯

Q 介護職員支援事業人材確保に關しての実績と評価は。

A 介護職員の初任者研修補助実績8人、実務者研修補助実績は11人、研修後19人が市内事業所で一年間勤務についています。

子ども政策部・教育委員会事務局

Q 放課後児童クラブの指定管理の金額が適正かどうか判断しにくい。どういった基準で設定しているか。

A 積算は実績に基づき適切に行っている。年度終了後には各施設の決算書提出、その中で5%以上残額がある場合は指定管理料を返すことを協定で定めている。

審査結果 放課後児童クラブについては、指定管理料の算定や急増する入所希望にどう応えていくのが議論されました。

Q ICT教育重視へ、電子黒板やタブレットの整備状況とその活用実態について報告を求める。

A 活用は一週間約30時間の授業日数に対して、先進的に導入した



小学校でのICT教育

決算審査②

学校では12時間から20時間で活用しているという状況。今後は機器を有効に活用した授業に力を入れていくことが大事である。

審査結果 事務局からは、教育情報化に関連した教職員を中心に活用推進に向けた協議をして、さらに市のICT推進室と連携、教育の情報化推進計画を策定していくことを確認しました。

産業経済部・建設部

Q 獣害対策について、被害額は低減しているが捕獲頭数は横ばい。獣害対策のポイントは。

A 集落ぐるみの取り組みで、山内地域のようにICTを導入し遠隔操作で捕獲する。3期目の強化期間、甲賀地域鳥獣被害防止計画に終期を合わせるため、本年度より4か年としたい。

審査結果 カラスやムクドリ対策の必要性を求めました。



市内に設置されている獣害柵

地域交通対策事業について

コミバス・コミタクについては、今年10月からコミタクの運行エリアが拡大され、無料乗車券の対象が80歳から75歳以上に拡充されましたが、委員会ではコミタクに対して否定的・消極的な意見が出たので、一定時間をかけて各委員が相互に意見交換する時間を設けました。



市内を走るコミバス

代表監査指摘事項

決算審査意見書に記されている点をふまえて、補足の説明をいただきました。この中で特に、前年度と比べて収納率は向上しているが、それでも県内13市の中で下から2番目という報告は初めてでした。代表監査からは「一生懸命

滞納対策に知恵を出してやってもらえることは充分理解しているが、初期対応で市民に寄り添いながらアクションを起こせばもう少し違うのではないかと率直な感想が寄せられました。

最終の総括質疑

Q 市内特別養護老人ホーム建設費にかかる債務負担行為の償還金補助について、平成29年から30年にかけて返還金が大きく減った理由は。

A 大口の償還が終了したため。

Q 合併して15年、当初の約束だけで補助金を出し続けてもいいのか疑問である。

A 新年度予算では各部署の補助金の見直しを徹底していく。

審査結果 区及び自治会管理の防犯灯の実態調査を、委託してでも早期に仕上げること。信楽高原鐵道の障がい者割引を協議していくこと。ここ数年の人口減少の鈍化が成果の一つではないかとの認識について、確認しました。その他、自治振興会と区の関係、土地使用料、民間社会福祉法人施設整備補助の不用額についても指摘がありました。

反対討論

医療費無料化の拡充やエアコン整備、住宅リフォームなど市民の願を反映したものであり、一定評価できるが、5億円の財源確保の問題点、合併特例債による大型公共施設整備が進められた。しかし市民のねがいである学校給食費の負担軽減、子どもの医療費無料化などはまだであり、さらなる拡充が必要である。

賛成討論

第二次総合計画の2年目であり、安心して暮らせる基盤整備に取り組まれている。歳入に見合った歳出と経費節減など、財政健全化に向け効率的な予算執行に努めている。

岩永市長が進めるプロジェクト10、公共施設整備等、合併特例債の積極的な推進が図られたことは高く評価する。

採決の結果、本議案は、賛成多数で認定すべきものと決定しました。